

■令和3年度 北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計

第7回 検討委員会 議事次第

1. 開会
2. 前回内容の確認
3. 北川村の教育の方向性及びサウンディング結果等について
4. その他
 - ・今後の検討委員会日程について

配布資料 資料1 第6回検討委員会議事録

資料2 北川村の教育の方向性及びサウンディング結果等について

資料3 今後の検討委員会日程について

第 6 回北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和 3 年 1 2 年 1 5 日 (水) 1 9 : 1 0 ~ 2 1 : 0 0
開催場所	北川村立北川小学校 多目的ホール (オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 永野委員長、森本委員、小笠原委員、田中委員、山崎 (美) 委員、山崎 (和) 委員、田所委員、弘田委員、阿部委員 伊庭委員、倉斗委員及び中山委員 (リモート参加) 計 1 2 名 ■ アドバイザー 柳川アドバイザー ■ GPMO 湯川 ■ 事務局 野見山副村長、西岡教育次長、百々次長補佐、溝渕主幹
議題	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 前回内容の確認及び基本計画 (案)</p> <p>(3) 保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について</p> <p>(4) サウンディング結果報告</p> <p>(5) その他</p> <p>・ 次回の検討委員会について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 1 第 5 回検討委員会議事録、基本計画 (案) ・ 資料 2 保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について (面積規模の試算等) ・ 資料 3 サウンディング結果報告

議事経過	<p>(1) 開会</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局挨拶
議事経過	<p>(2) <u>前回内容の確認及び基本計画(案)(第5回検討委員会議事録、基本計画(案)【資料1】)</u></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】に基づいて説明 <p>【山崎美砂委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの特性を踏まえて、地域の方に開かれた交流施設をつくっていく方向性は、現状の子どもたちの課題を解決するのに向いていると思った。 <p>【山崎和美委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論を踏まえてわかりやすくまとめてくださっている。 <p>【弘田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすくまとめてくださっている。少ない人数であるので、小さいときからお兄ちゃんお姉ちゃんと交流できる方がよりよく学習できると思う。 <p>【阿部委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学校というのは入りづらいイメージがあったが、外部と交流できるようになると親近感もわき、地域でも子どもに声をかけやすくなると思う。 <p>【田所委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育はぜひやってもらいたいと考えている。小学生や中学生が小さい子とふれ合い、働くことを知ることは重要である。また、世代間交流を行い、お互いを知れることはいいことだと思う。一方で、保育所がどのように関わるのかはわからない部分もあり、一体的な校舎について今後具体的に進めていってもらえればと思う。 <p>【倉斗委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも村として一貫校化することや複合化をするのは、手段であって、目的があると理解している。その目的をみなさんと共有していくことが重要であると理解している。 ・また、保育所を一緒にすることの意味についてご発言があったが、今後一貫校や複合化に舵を切っていく場合は、全国で一貫校化などの事例がたくさんあるので、そういった事例も踏まえて検討していければと思う。 <p>【伊庭委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いま目的の話があったが、教育を通じて子育て世代を呼び込むことと子どもたちの教育をより良くすることが目的だと理解している。前者については、教育だけひとを呼び込むのは非常に難しい。そのため、就業環境や医療などの北川村のファンダメンタルズ(基礎的な要素)が整備されないと難しい。後者については、一貫校化は、子どもたちにとって、各校種の接続をスムーズにするというのが大きい。上級生が下の子どもたちとの交流することで、人の繋がりとか人の豊かさみたいなものが育まれるメリットがあると思う。一貫校化することが、どのような効果を得られるのかという分析はしっかり検討すべきであると思っている。加

	<p>えて、2つの目的に対して北川村の子どもたちにとって、どのような効果があるのかを分析できればと思っている。</p> <p>【小笠話委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画（案）P. 9の「IT化～」部分について、ニュース等の見聞きする全国の事例をみるともはや当たり前になっていると理解しているが、そう考えると、この部分が魅力的かつ特色ある教育活動の創造の箇所にあるのは違和感がある。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語教育については英語が当たり前のように進められているが、北川村については、モネの庭があり、フランスとの交流がある。そのため、英語と同じようにフランス語もできるようになっていったら良いと考えている。 <p>【柳川アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異動がある公立学校の特色を踏まえて、大きく進めすぎてしまうと新しく赴任した先生が追いつかなくなるようなことも考えられる。そこが、私立と大きく異なる点であると考えている。そのため、新しく赴任してきた方も対応できるような、地域に根付かせていくようなシステム、仕組みを構築することが必要であり、今後の課題でもある。 <p>【中山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的な意見として、教育の内容を検討する際に、保育所の学びが小学校、中学校の学びに対して後で付け足されている印象がある。自主的、主体的な学びというのは、幼児期からある学びの1つである。保育所にもしっかりとした学びがあるのだという位置付けをしてもらって、保小中の学びを連携させてほしい。 建物については、学校施設内だけではなく、園庭や外の学びも重要であり、乳幼児にとって大切な遊具も検討してもらいたいと考えている。
議事経過	<p>（3）保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について（保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について（面積規模の試算等）【資料2】）</p> <p>【柳川AD】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【資料2】を基に説明 <p>【山崎美砂委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真をみた感じでは狭くないと思ったが、電子黒板など多くの備品があるので少し狭くなると感じている。可動式については、防音ができていれば可動式の間仕切りは使い勝手が良くて魅力的である。 <p>【柳川AD】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板は、過渡期があって様々な用法があったが、設計の段階で壁面につけていくことで、対応できるのではないかと考えている。 <p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末が導入されたことで机が狭くなっているのではないかと感じている。どう対応するかは気になっている。 これまで特別支援学級ができるたびに、中を改修してきた経緯があるので、レイアウトを簡単に変えられるのはいいと考えている。

【柳川 AD】

- ・国の委員会でも、机が小さいという意見はでていっているので、今後そういった意見を基本計画にコメントとして付記していくことも考えている。
- ・特別支援学級についても、間仕切りを設けると同時に、どこの場所に設置するのも重要である。プライバシーの観点からも、落ち着いた空間も重要であるので、そういった内容も追記していきたい。

【山崎和美委員】

- ・施設の広さについて、現在の年長が6名、年中4名、年少3名で人数も少なく、現在の状況で十分ではないかと考えている。ただ、今後人数がさらに減ることで、年長も一緒になると、その状況に合わせて用途が変更できるようになると良い。

【倉斗委員】

- ・机の大きさについて、現在、文部科学省の委員会でもタブレットが導入されてどうなるのかという議論は継続して行っている状況である。タブレットが全員に配られている段階で全員同時に自分の手元で何かを見るということもできるとなった時に、一斉に同じ方向を向いている机ということも将来的にどうなるのかわからないというような議論もある。現にヨーロッパなど他の外国の学校を見てみると、低学年ではテーブル形式で4人とか6人とかで学習するスタイルもあり、その辺りは現在過渡期なので議論しにくい部分もあるが、少し柔軟に考えてもいいのではないかとこのように思っている。北川村のことで言えば、児童生徒数が非常にコンパクトな規模感ということは、逆に捉えると非常に柔軟な運用ができることにもなるので、例えば一斉的な全員で前を向いて先生の黒板の場面を見るような授業をする空間もあれば、グループで行う部屋もあるというような空間も可能だと思っている。なので、個別最適の学びということが今後空間的にどうなっていくのかということも同時にイメージしながら議論を行っていきたい。

【伊庭委員】

- ・20億円程度の試算がなされているが、1000人規模の村のため、1人当たり200万円の負担、4人家族の方で800万円の負担をして、子どもたちの教育のための建物だけではなくて、ソフトの方もお金かかっている中で、将来のあるべき姿の議論を行い、どんな教育を行っていくのかということから建物を考えないといけないと思っている。英語、フランス語の教育でも、自動通訳みたいなことができるようになってしまったりして勉強すること自身の意味がなくなってくる可能性だってないことはない。建物の形状とかって議論はまた後にして、将来の教育ってどうなっていくのかということも北川村で考えるべきである。北川村特有のここで自分の人生捨てても子どもたちをここで育てたいと思うような教育というのは一体何なのかという議論をするべきではないか。もう少し先鋭的な議論を行って、そこから導き出されるあるべき建物っていうのは何かを考えたい。学校を立てて改築すると40年先50年先の話なので、議論を深めたほうがいいのではないかなと思っている。

【柳川 AD】

- ・地域住民の感覚というものと先進的な学びというものをどうすりあわせて行くのがそこもすごく大事になってくると思う。保護者からすると、夢もあるかもしれないけど不安もあり、そのあたりは村をあげて議論していけるような環境になっていけると良いのではないかと感じている。

【柳川 AD】

- ・【資料2-2】に基づいて村民会館の複合化について説明。

【阿部委員】

- ・畳の空間はリラックスでき、子どもを安全に遊ばすことができるのではないかと。

【弘田委員】

- ・公園に砂場があると、ありがたいと感じている。内部というよりも外部の環境も大切にしてもらいたい。

【森本委員】

- ・図書館のイメージは良いので、村外からも来てくれるのではないかな。

【柳川 AD】

- ・図書館もこれまでの図書館とは性質が変わってきていて、今までだと本を読む場所であったが、学びの中で授業の中で子どもたちがやってきて、司書の先生がアドバイスをするような学び、教育的な観点が重要であり、また、土日曜日も利用できるような環境もどうだろうかと考えている。

【山崎美砂委員】

- ・家庭科室や理科室は子どもたちや先生が使用していないときに、村民の方に開放することは良いと感じている。図書館については、村民全体の図書館として、調べたりパソコンをしたりなどいろんな機能を備えていくのは良いと感じている。

【柳川 AD】

- ・これまで子どもたちが作成していったものを保管するなど博物館的な機能を付加することも考えている。

【山崎美砂委員】

- ・管理の面は検討しないといけないが、そういった環境は良いと思う。放課後に子どもたちが宿題をしたりするような個室などもあると良いのではないかな。

【山崎和美委員】

- ・図書室に関しては、年長になると、遊びの中で気になったことを調べ物をする際にすぐに調べられる状況にするのが良いと感じているが、大きいライブラリーだとその機能が果たせるのか気になっている。
- ・食育の面で、料理ができるような空間があったら良いと思う。

【倉斗委員】

- ・今回柳川アドバイザーからご提示していただいた写真は、イメージを持ってもらうために出されたものであると理解しており、逆に言えば、教育ビジョンさえ整っていればどういった施設が良いのかが専門家から出てくるものだと考えている。なので、検討委員会では、北川村の教育ビジョン、教育サービスなどソフトの部分を具体的に考えていかないといけないと考えている。そこがクリアになれば、様々な設計を含めて手段を検討できる。今見せて頂いた写真に対して、北川村だとどうなるかという話について、頭の中に「北川村ではこういう教育したいな」ということがあるから、この写真に対する評価が出てくるのだと思うので、その部分をうまくまとめていく作業がこれから重要であると考えている。

【伊庭委員】

- ・ソフトの面でお金がかかってくるので、基本的に公民連携の考え方からすると、行政行財政改革っていう視点がどうしても外せない。これから30年40年という長い期間にわたって北川村さんが財源的にもつのかという検討も一方では必要になってくる。先ほどの事例の双葉町や富岡町にしても、東北の震災のあとの復興資金や原発事故によるお金が非常に潤沢に入ってきている。ふたばの自由学園にしても非常に素晴らしい学校になっているが、これから何10年もあの町で維持できるのかという危惧がある。北川村さんの場合も、財源の検討は一方ですっかりとやっておく必要があると感じている。

【中山委員】

- ・ 教育の内容について議論をして行く際に現場の先生方が豊かにそのイメージが持てるのかはすごく大事だと考えている。県内で言うと、例えば香美市大宮小学校は国際バカロレア教育を導入し、特色ある教育を行っているので、異動のある先生方がそういった特色のある学校に異動した際に、どう向き合っているのかといったことが学べるのではないかと。そこでは、もうすでに机が四角ではなく台形の形が使われていて、廊下との間の壁がなくオープンスペースがある状況だった。そういうものを見聞きしてくるとイメージもより豊かになって議論が深まっていくと感じた。

【柳川 AD】

- ・ サウンディングは先週終わったところであるので、今回お示しする予定だったサウンディング結果については、次月に予定していたPFIの定量的な部分の情報と併せてお示ししたいと考えている。

【事務局】

- ・ 【資料3】サウンディング結果報告について簡単に説明。

【GPMO】

- ・ サウンディングの内容は、13社からご意見を頂戴しましたが、このサウンディングはあくまでこの議論の検討過程をお伝えしてアイデアをお伺いした内容になっている。そのため、少し空想的であったりする内容もあるかもしれないが、この時点でのご意見として整理して読んでいただければと思う。

【事務局】

- ・ 今後サウンディングの内容は公表するが、内容については企業が特定されないように配慮した形で簡素で公表することはご承知おきいただければと考えている。また、資料の取り扱いにはご注意いただければと思う。
- ・ 次回検討委員会は、1月19日（水）19時～になる。

現状・課題

- ◆子どもは素直で純朴であり、村に誇りと愛着を持っている。一方で、受け身で積極性に欠けたり打たれ弱さがあつたり、指示待ちの子どもが多い。
- ◆村の人口が減少しており、このままでは10年後には人口千人を割り、村の活力がさらに失われていくことが想定されている。
- ◆人口の減少は、子ども同士が切磋琢磨できる環境を失わせるとともに、様々な人との出会いや関わりへの減少にも影響を及ぼしている。
- ◆保小中それぞれの校舎が離れており、一体的で連携した活動を展開するには大きな制限がある。
- ◆小中学校の主要部分は2022年に築60年を迎える中、機能面でも、子ども達の多様な学習の場を提供できる空間とはなりえていない。

北川村の教育の指針

- 保幼小中15年を見通し、故郷へのさらなる愛着や貢献心、多様性・主体性・創造性を育む新しい教育の実現
- 課題を克服し、自己変革のみならず地域や社会を変革していく主体的な変革者の育成
- 環境整備を重ねて、「北川ならではの教育」の実現を見据えたカリキュラム・マネジメントの構築

教育における取り組みの基本理念・姿勢

基本理念 「かかわる みつける たがやす つくる」

基本姿勢1 村の魅力及び子育て・教育における魅力の創生と発信の実現

基本姿勢2 地域資源をもとに、村民、村外の子ども、村に縁ある人と関わる教育の実現

基本姿勢3 異学年・異年齢・異校種での交流・協働による多様な学びの実現

保幼小中一体化教育 義務教育学校 認定こども園

異学年・異年齢・異校種間交流 多学年教育 企業連携 村民参画 関係人口・来村者参画 一流講師招聘

アクティブラーニング 先進的なICT活用(海外との交流等) ラーニングコモンズ

北川学 農業・しごと学習 外国語教育 オンライン英会話 フランス語ことば遊び 食育活動 自然体験学習

みんなが集い みんなが学び みんなでつくる

【文教施設・子育て教育環境等の整備の指針】

「多様な場所で、多様な人と関わり、多様な集団により学び合う、
北川ならではの教育環境の実現」

【環境づくりの実現目標】

- I. 誰でも身近に気軽に立ち寄れる、魅力発信・村民活動・子育ての拠点づくり
- II. 北川だからできる「子育て」環境づくり（学校施設への公共機能の複合化）
- III. 0歳～15歳の一体的な教育環境づくり（幼保＋義務教育学校）

北川村文教施設・子育て環境デザインコンセプト（案）

「0歳～100歳 みんなが集い、学び、みんなでつくる
村民拠点 ゆずのたね」

【環境づくりの実現目標】

1. 誰でも身近に気軽に立ち寄れる、魅力発信・村民活動・子育ての拠点づくり

- ① 学校を中心に、地域資源（モノ・ヒト・コト・トコロ）を見える化する拠点づくり
- ② 地域資源の魅力や地方創生活動の発信の場やその内容を、皆でつくる環境づくり
- ③ 村内村外、老若男女、様々な人が気軽に立ち寄れ、ふれあえる居場所づくり
- ④ 地域資源をきっかけとして、外（村外、県外、国外）とつながる拠点づくり
- ⑤ 一人ひとりが発信者になって発信することを支える環境づくり

【環境づくりの実現目標】

II. 北川だからできる「子育て」環境づくり（学校施設への公共機能の複合化）

- ① 地域資源（モノ・ヒト・コト・トコロ）をもとに、関わり、学ぶ拠点環境づくり
- ② 今ある地域資源をいかし、多様性の中で確立できる自己を育む環境づくり
- ③ 子どもの学びのモデルとして、大人の活動する姿がみえる環境づくり
- ④ 村民が見守り、必要に応じて関わることのできる環境づくり
- ⑤ 地域の一員として、共に活動することで、学び合いが生まれる環境づくり

【環境づくりの実現目標】

Ⅲ. 0歳～15歳の一体的な教育環境づくり（幼保＋義務教育学校）

- ① 0歳～15歳が通い、一体的な教育を最優先とする環境づくり
- ② 学びや生活で、互いの姿が見え、常につながりと一体感が感じられる環境づくり
- ③ 年齢や学年を越え豊かな質の空間を使い合い、支え合って学び合える環境づくり
- ④ 北川だから生まれる学習活動を創造し、学びの連なりが表現できる環境づくり
- ⑤ 多様な年齢の体格差に配慮しつつ、多様的で包摂的な自治活動を育む環境づくり

令和 3 年 12 月 27 日

**民間と連携した文教施設・子育て教育環境等整備事業に関する
サウンディング型市場調査の結果について**

北川村では、令和 2 年度から子育て教育ビジョンを策定し、0～15 歳までの 15 年間の一貫した教育で誰ひとり取り残されず学ぶことができる魅力的な環境を創るため、保育所・小中学校・地域等が一体となって子育て教育環境の整備に取り組んでいます。その中で、本調査では、ハード面だけではなく、ソフト面そしてその両面を実施する上での資金調達手法について、幅広く官民連携手法を取り入れる多様な PPP/PFI の導入検討をしています。

本サウンディング型市場調査は、本事業における市場性の有無、民間事業者のアイデアや意向等を把握することを目的とし、民間事業者と個別に対話を行いましたので、その結果を公表します。

(1) 民間事業者ヒアリング調査概要

実施要領に基づき、11 月 15 日～12 月 7 日の期間でサウンディングを実施した。合計 13 社からサウンディングの申し込みがあり、意見交換を行った。なお、実施日については、日程の都合上、延長しています。

(2) サウンディング参加業種

	県内事業者	県外事業者	合計
設計事業者	1 社	—	1 社
建設事業者	2 社	—	2 社
教育サービス事業者	—	2 社	2 社
通信事業者	—	1 社	1 社
メーカー	1 社	—	1 社
維持管理事業者	1 社	3 社	4 社
マネジメント事業者	1 社		1 社
開発事業者	—	1 社	1 社
合計	6 社	7 社	13 社

(3) 主な意見

・民間事業者から得られた主な意見は以下のとおりです。

(1) 文教施設・子育て教育環境等整備の方向性についてのまとめ

【全体的な意見】

どの企業も複合化については前向きな意見が寄せられた。また、その際には、総合型地域スポーツ・文化クラブを核にしたコミュニティの形成という提案もあり、体育館、プール、グラウンドを活用して総合型スポーツ施設ができるなど新しい方向性の提案もあった。さらに、高齢者施設との併用は各地に事例もあり、検討の余地があるとの意見も複数もらった。実際に事業を進める際には、共感できるビジョンを作成することで優秀な人材を集めるようにしなければならないとの意見もあった。

また、一方で、運用面では小学校などの学校施設や社会教育施設など各施設をマネジメントするコーディネーターの存在や行政と民間企業など各主体をマネジメントできるコーディネーターの存在は必須との意見もあった。管理面では、複合化する際には、各施設のゾーニングを明確にしておくことが重要である指摘もあった。

【個別意見】

- ・芝生化することによって、他地域からの流入がある事例があり、教育環境の魅力化に資する。
- ・複合化をすると、施設整備費と維持管理費両方の削減が見込めるとの意見もあり、一方で学校施設やシェアオフィスなど各施設のセキュリティレベルは異なるため、明確なゾーニングや動線の区分けが重要になる。
- ・北川村で新しい校舎を作る場合は、鉄筋ではなく木造のイメージがある。実際、県内でも木造することで教育環境として魅力が高まっているが、耐用年数は鉄筋の方が長く、イニシャルコストとランニングコストを総合的に考える必要である。
- ・維持管理コストを下げるには、設計段階から管理面での検討もできると良い。

(2) 本整備における官民連携の可能性についてのまとめ

【全体的な意見】

どの企業も複合化をする場合は、PFI など官民連携手法が良いという意見が寄せられた。PFI は民間企業が手を抜けない手法、制度設計さえできれば良い、維持管理面も否応なく気にしなければならないのは民間側としてプレッシャーになる、年度を超えていけるなどの特徴が PFI を経験したことのある企業からの意見であった。また、北川村の教育ビジョンを実現するためには、従来の公共事業の枠組みを外し、民間活力の積極的な参入によって、未来を見据えた村づくりを進めるべきだと考えると、PFI 方式が良いのではとの意見もあった。さらに、今回の事業で遊休地（みどり保育所）が出てくる場合、学校建設と遊休地の活用を個別に検討するのではなく、1つの事業として検討した方が、採算性が高まるとあった。コスト面では、PFI の場合だと、維持管理・運営を行う事業者の目線の意見も設計段階から取り入れることが出来るため、より使いやすい施設になること、

維持段階でのライフサイクルコストの低減等が期待できるという意見もあった。

【個別意見】

- ・教育サービス自体を民間にリスクを負わせるのはハードルが高いが、クラブ活動のお手伝いは民間でもできるという意見もありつつ、教育サービスを事業の中に含めても問題ないという意見もあった。
- ・事業期間については、10年～15年ぐらいと考えている事業者もいれば、大規模修繕のリスク管理さえできれば長期間で設定することはメリットになるという意見もあった。
- ・地元企業の参画については、学校設備のノウハウがあるのかどうか、PFIの運営ノウハウがある事業者と組めるかがポイントになるとの意見であった。
- ・今回の施設整備の中に、収益事業を実施できるエリアも検討できる場合、地元のスーパーや買い物難民対策の拠点などにもできる可能性はあるとのことである。

(3)北川村で展開できる教育サービスについてのまとめ

【全体的な意見】

放課後に対する教育サービスを実施している事業者からは、コーディネーターの存在の重要性を同じように指摘していた。また、具体的なプログラムの提案だけではなく外部団体の助成金を活用して実施することも可能性としてある旨意見交換ができた。また、IoTなどのテクノロジーを活用した起業家人材の育成などのプログラムも提案できる旨があった。全体的には、テクノロジーやWebを活用しつつ、外部の資金を獲得しながら事業を展開することの重要性の説明があった。

【個別意見】

- ・教育サービスではないが、政策として、シングルマザーへのアプローチはあり得るのではないかという意見もあった。教育環境を整えるだけではなく、その親への支援も含めて総合的に考えていき、村全体の活性化を検討する必要性を指摘しての意見であった。
- ・教育委員をしていた経験から、教育相談やカウセリングなどの講演の無償提供の提案もあった。

(4)多様な官民連携を実施する上での資金調達についてのまとめ

【全体的な意見】

企業版ふるさと納税に関しては、企業として実施するのは想定していないという意見はあったが、プロポーザル提案書の中に、地域貢献の1つとして企業版ふるさと納税を実施したこともあるなどの意見があった。そのほか、本事業においては、各省庁の補助金をうまく活用していくことが村の持ち出しを削減することに繋がることから、活用経験のある補助金の内容について説明があった。

子育て文教エリアの施設整備の方向性について（サウンディングを踏まえて）

今回のサウンディングにおいて、子育て文教エリアの施設整備の方向性について民間事業者からアイデアレベルものから少し具体的な提案まで幅広く意見をもらった。今回は、その提案を受けて、北川村として整備する施設として、どういった方向性が適切なのかについてご意見をいただきたい。

文教施設・子育て教育環境等整備の方向性についてのまとめ

- ①総合型地域スポーツ・文化クラブを核にしたコミュニティの形成（体育館、プール、グラウンドを活用した総合型スポーツ施設）
- ②高齢者施設との併用（「高齢者とともに学び、高齢者から学び、高齢者との交流を通じて自分の存在価値を実感する」学び・成長の場。）
- ③芝生化について
- ④木造化もしくはコンクリート造について

教育委員会としての考え

①総合型地域スポーツ・文化クラブを核にしたコミュニティの形成（体育館、プール、グラウンドを活用した総合型スポーツ施設）

総合型スポーツ施設に近い施設として、中芸広域連合としてトレーニング設備もある体育館が整備されている。また、複合化はあくまで保小中の一体的な施設及び子育て教育環境の充実に基づくものである。ワークショップや検討委員会で議論してきたとおり、コミュニティの形成や子どもたちにとって多様な環境・繋がりは、小中学校の体育館・グラウンドを地域に開放・共有することで充実させていきたい。

②高齢者施設との併用（「高齢者とともに学び、高齢者から学び、高齢者との交流を通じて自分の存在価値を実感する」学び・成長の場。）

高齢者とともに学び交流することは必要なことである。図書館等を地域に開放・共有することで多様な交流を考えており、高齢者施設の建設・運営はこの度の施設では考えていない。

③芝生化について

芝生は維持管理が難しい側面もあるが、人工芝の活用や園庭や中庭など部分的な整備も含め、芝生化したら良い場所についてご意見をいただきたい。

④木造化もしくはコンクリート造について

資材の価格等により変わってくる可能性があるが、木材利用促進法に基づき村でも木材利用を推進していくことから、近年の温泉施設や交流施設整備と同様に、木造化、最低でも内装の木質化で施設整備していく。

令和 3 年度北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会日程（変更追加案）

回	日時	開始時刻	備考
第 1 回	7 月 2 8 日（水）	1 9 : 1 5 ~	開催済み。
第 2 回	9 月 2 9 日（水）	1 9 : 0 0 ~	開催済み。
第 3 回	1 0 月 1 3 日（水）	1 9 : 0 0 ~	開催済み。
第 4 回	1 0 月 2 7 日（水）	1 9 : 0 0 ~	開催済み。
第 5 回	1 1 月 1 7 日（水）	1 9 : 0 0 ~	開催済み。
第 6 回	1 2 月 1 5 日（水）	1 9 : 1 0 ~	開催済み。
第 7 回	1 月 1 9 日（水）	1 9 : 1 0 ~	このたび開催予定。
第 8 回	2 月 1 6 日（水）	1 9 : 0 0 ~	当初案
	2 月 9 日（水）	1 9 : 0 0 ~	変更案
第 9 回	2 月 2 1 日（月）	1 9 : 0 0 ~	追加案

※検討委員会の開催日について、2月9日の変更に加え、2月21日を新たに追加日として開催したいと考えています。